

# 感染症発生動向調査委員会報告 12月

## 今月のトピックス

インフルエンザは第44週をピークに、第50週まで6週続けて減少しています。

病原体検出状況では、AH1pdmのみ検出され、今シーズンにおいては、季節性インフルエンザは検出されていません。(12月17日現在)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘がやや増えています。

感染性胃腸炎は流行が見られていませんが、第51週に入って、市内でもノロウイルスによる集団感染の報告があります。

RSウイルス感染症は比較的低値ですが、神奈川県全域、川崎市、東京都と近隣自治体では増加しています。

## 全数把握疾患

### < 腸管出血性大腸菌感染症 >

12月は16日現在で3例の報告がありました。1月からの報告数は84例であり、昨年1年間の報告数64例を上回っています。

### < アメーバ赤痢 >

12月は4例の報告がありました。そのうち一例は海外での感染です。1月からの報告数は33例であり、昨年1年間の報告数47例を下回りました。アメーバ赤痢による感染は、性感染のほかに、飲食物による経口感染がありますので、海外旅行の際には注意が必要です。

アメーバ赤痢についてはこちらをご参考下さい。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/entamoeba1.html>

### < 後天性免疫不全症候群 >

12月は1例の報告がありましたが、前月以前の追加報告が4例あり、計5例の新規報告が見られました。5例のうち4例は、男性同性間性的接触によるものでした。1月からの報告数は31例で、昨年1年間の報告は42例でした。日本は先進国の中でも感染の増加が見られています。特に、男性の同性間性的接触の増加が顕著です。感染予防と、早期発見、パートナーへ感染させないことが大切です。

後天性免疫不全症候群についてはこちらをご参考下さい。

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/30/355/tpc355-j.html>

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/hiv.html>

### < 急性脳炎 >

12月には報告がありませんでしたが、前月以前の追加報告が3例ありました。11歳、18歳、70歳でした。どれも新型インフルエンザによるものです。1月からの報告数は12例で、1例を除いて新型インフルエンザによるものであり、全例新型インフルエンザの流行している9月以降に見られています。昨年1年間の報告は2例でした。インフルエンザに伴う脳炎も、全数届出が必要です。

インフルエンザによる急性脳炎についてはこちらをご参考下さい。

<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/idwr09week45.html>

届出基準につきましてはこちらをご参考下さい。

<http://kanpoken.pref.yamaguchi.lg.jp/jyoho/page7/5rui-zk03.pdf>

## 定点把握疾患

### 【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点:88か所、内科定点:57か所、眼科定点:18か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計192か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計145定点から報告されます。

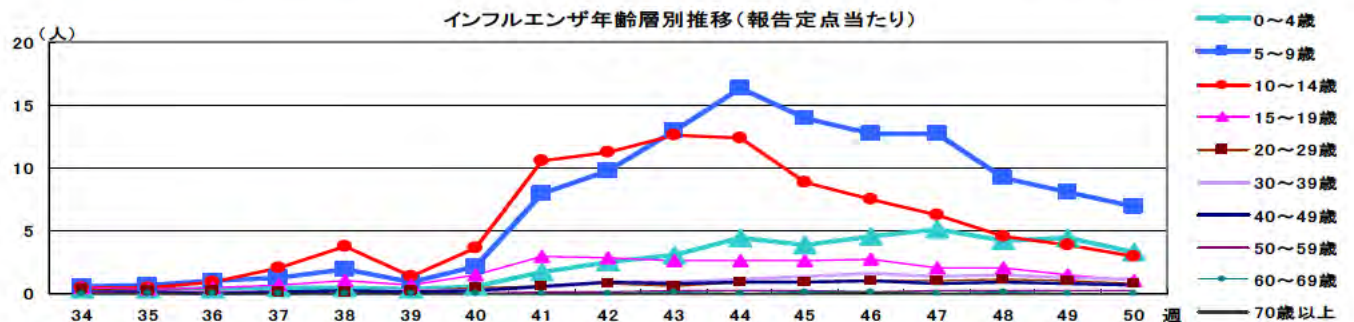
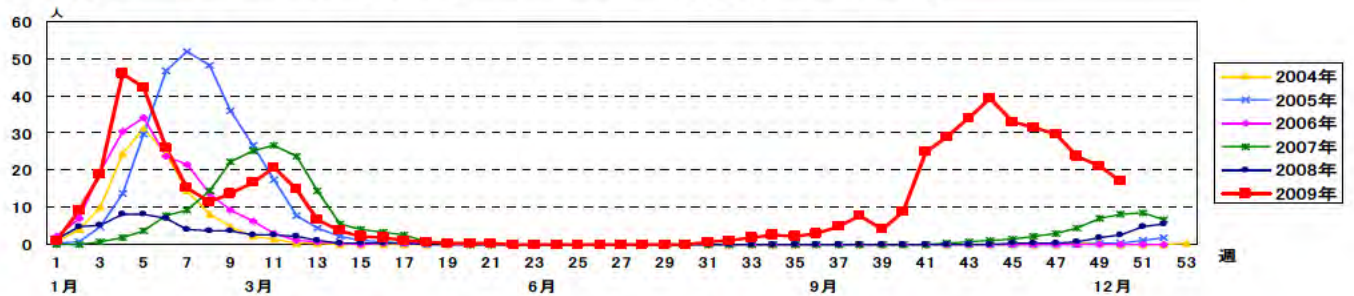
平成21年11月23日から平成21年12月13日まで(平成21年第48週から第50週まで。ただし、性感染症については平成21年11月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成21年 週一月日対照表

週	日
第48週	11月23～29日
第49週	11月30～12月6日
第50週	12月 7～13日

### <インフルエンザ>

市内流行状況については、第32週(8月3日からの週)に流行の目安となる定点あたりの報告数1を超え、第44週には39.18と今シーズン最大となりましたが、第50週17.01と6週続けて漸減しています。年齢層別推移でも、何れの年齢層でも低下が見られます。また、定点医療機関からご協力頂いている迅速診断キットの第50週の結果は、A型1894件、B型5件、AB陽性が1件でした。病原体検出状況では、AH1pdmのみ検出され、今シーズンにおいては、季節性インフルエンザは検出されていません。



学校等施設閉鎖の報告数は、ピーク時の第44週では262施設で患者4969人でしたが、第45週では202施設3876人、第50週では72施設820人でした。全国では定点当たりの報告数は27.39、神奈川県横浜と川崎を除いた県域(以下県域)は24.13、川崎市は15.61、東京都は13.75でした。

### <RSウイルス感染症>

例年冬季に流行が見られますが、第50週の定点当たりの報告数は0.05です。全国では0.78、県域では0.57、川崎市0.58、東京都0.31と何れも横浜より高めです。今後の流行に注意が必要です。

### <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下し、また冬季に増加します。今シーズンも、第34週に最低値となった後、細かな増減はあるものの増加傾向が続き、第50週には定点あたり1.40でした。行政区別では港北区(6.14)が高く、次いで泉区(3.25)、瀬谷区(2.67)となっています。全国では1.06、県域0.90、川崎市1.36、東京都1.25でした。

#### < 感染性胃腸炎 >

例年冬季に流行が見られます。第50週の定点あたり報告数は5.63ですが、第51週に入り、市内でも保育園等集団施設の集団感染の報告が続いています。全国4.79、県域4.22、川崎市8.88、東京都6.23です。病原体がノロウイルスによる場合は、アルコールによる消毒が効果はありません。手洗いに加え、吐物、排泄物の処理等施設管理に注意が必要です。

#### < 水痘 >

例年、年末にかけて発生が増加します。第50週の定点あたり報告数は1.07でした。全国1.33、県域1.32、川崎市1.70、東京都1.16でした。

#### < 性感染症 >

性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

11月は、10月に比べて全体としては大きな変化はありません。

性器クラミジア感染症は、男性12例、女性21例でした。性器ヘルペスウイルスは、男性6例、女性11例、尖圭コンジローマは、男性8例、女性3例、淋菌感染症は、男性10例、女性1例でした。

#### 【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点：8か所、インフルエンザ（内科）定点：5か所、眼科定点：1か所、基幹（病院）定点：3か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

#### < ウイルス検査 >

2009年12月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点42件（鼻咽頭ぬぐい液39件、便2件、気管吸引液1件）、内科定点12件（鼻咽頭ぬぐい液）でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ（疑いを含む）29人、咽頭炎・気道炎6人、RSV感染症3人、胃腸炎3人、発疹症1人、内科定点はインフルエンザ12人でした。

1月8日現在、インフルエンザ患者（小児科定点25人、内科定点9人）と小児科定点の気道炎患者3人、胃腸炎患者1人の合わせて38人から新型インフルエンザウイルス（AH1pdm）が、小児科定点の気道炎患者1人からコクサッキー - B4型ウイルスが分離されています。また、小児科定点のAH1pdmが分離されたインフルエンザ患者1人からはRSウイルスの遺伝子も検出されています。

これ以外にPCR検査では、小児科定点のRSウイルス感染症患者2人からRSウイルスの遺伝子が、RSウイルス感染症患者1人からAH1pdmとRSウイルスの遺伝子が、インフルエンザ患者1人からコクサッキー - A6型の遺伝子が、胃腸炎患者2人からノロウイルスG2型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

#### < 細菌検査 >

12月の感染性胃腸炎関係の菌株の受付は12株で腸管病原性大腸菌及び腸管出血性大腸菌が各1件でした。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は4件でA群溶血性レンサ球菌が3件よりから検出されました。